

委員からの御意見

- ・ 藤野委員

2015年3月5日

藤野純一

前回会合でのコメントに関する補足

前回の会合（第4回、2015年1月23日）のときに、今後の検討プロセスの明示、様々な試算を参考にした目標値づくりの検討についてお願いいたしました。

そこでご参考までに、こちらで把握している数値試算検討の事例についてご紹介いたします。

1) 日本エネルギー経済研究所

柳澤明、青島桃子、伊藤浩吉、第419回定例研究報告会「エネルギーミックスの選択に向けて」（2015年1月16日）

<http://eneken.ieej.or.jp/press/index.html>

2) 地球環境産業技術研究機構

RITE, 2014. RITE 世界および日本の CO₂・GHG 排出見通し 2014 について

http://www.rite.or.jp/Japanese/lab/sysken/about-global-warming/download-data/RITE_globalCO2GHGmission2014.pdf

3) 電力中央研究所

浜渦純大、星野優子、永田豊、桜井紀久、門多治、2013. 2030年までの産業構造・エネルギー需給展望、電力中央研究所報告 Y12033

星野優子、2015. 業務・家庭部門の省エネの見通しについて－2030年までの将来展望のためのシナリオ分析－, SERC Discussion Paper 14006 ver.2

4) 日本経済研究センター

岩田一政、小林光、鈴木達治郎、小林辰男、2015. 2050年、05年比でCO₂、6割削減は可能～30年でも米国並みの3割減～ http://www.jcer.or.jp/policy/pdf/150227_policy.pdf

5) JST 低炭素社会戦略センター

低炭素社会戦略センター. 2014. 平成25年度 総合編『明るく豊かな低炭素社会』の実現を目指して（社会シナリオ第2版）

<http://www.jst.go.jp/lcs/documents/publishes/item/fy2014-pp-00.pdf>

6) システム技術研究所

システム技術研究所, 2013. WWF 脱炭素社会に向けたエネルギーシナリオ提案 <費用算定編> WWF ジャパン気候変動・エネルギーグループ委託研究.

http://www.wwf.or.jp/activities/climate/cat1277/wwf_re100/

システム技術研究所, 2013. WWF 脱炭素社会に向けたエネルギーシナリオ提案 <電力系

統編) WWF ジャパン気候変動・エネルギーグループ委託研究

<http://www.wwf.or.jp/activities/files/EnergyScenario04.pdf>

システム技術研究所, 2014. WWF 脱炭素社会に向けたエネルギーシナリオ提案 (検証: 自然エネルギー接続保留に関する定量的分析: 電力系統編補論) WWF ジャパン気候変動・エネルギーグループ委託研究

<http://www.wwf.or.jp/activities/upfiles/20141111EnergyScenario04opt.pdf>

7) 自然エネルギー財団

自然エネルギー財団, 2015. 「日本のエネルギー転換戦略の提案ー豊かで安全な日本へー」

8) 地球環境市民会議 (CASA)

地球環境市民会議, 2014. 原発ゼロで CO2 排出 40%削減は十分可能〜「CASA2030 モデル」の試算結果〜.

<http://www.bnet.jp/casa/2/CASA2030Model/CASA2030Model.pdf>

9) 倉持他

Kuramochi Takeshi, Asuka Jusen, Fekete Hanna, Tamura Kentaro and Hohne Niklas, 2014. Japan's Medium- And Long-Term GHG Mitigation Pathways Under The Carbon Budget Approach, Vol. / Issue: No. 2014-02.

<http://pub.iges.or.jp/modules/envirolib/upload/5431/attach/IGES->

[Ecofys_Working_Paper_Japan's_Carbon_Budget_Final3.pdf](http://pub.iges.or.jp/modules/envirolib/upload/5431/attach/IGES-Ecofys_Working_Paper_Japan's_Carbon_Budget_Final3.pdf)

10) 明日香他

カーボン・バジェット・アプローチに基づく日本の中長期的な温室効果ガス排出経路, IGES Working Paper No. 2014-02. 2014

<http://pub.iges.or.jp/modules/envirolib/upload/5449/attach/IGES->

[Ecofys_Working_Paper_Japan's_Carbon_Budget_Final_JP2.pdf](http://pub.iges.or.jp/modules/envirolib/upload/5449/attach/IGES-Ecofys_Working_Paper_Japan's_Carbon_Budget_Final_JP2.pdf)

11) 歌川他

歌川学, 外岡豊, 平田仁子, 2014. ボトムアップモデルによる 2050 年までの対策を考慮する中長期省エネ・温暖化対策シナリオの検討, 第 31 回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス発表論文.

歌川学, 外岡豊, 平田仁子, 2014. ボトムアップモデルによる 2050 年までの中長期省エネ温暖化対策と費用対効果, 第 31 回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス発表論文.

12) 大城他

大城賢, 増井利彦, 2014. 低炭素エネルギー技術の不確実性を考慮したわが国の長期温室効果ガス削減シナリオ分析, 土木学会論文集 G (環境), Vol.70, No.6 (環境システム研究論文集 第 42 巻), II_207-II_215

他にもいろいろあると思います。また、エネルギー・環境会議およびそれまでの検討を参

考に試算がなされること、将来シナリオの算定根拠に関しまして、上記の関係者がさらなる検討を進めるためにも、弊所がそのときの試算のために作成しました「対策導入量等の根拠資料」等のレベルでの情報のご提示をお願いいたします。

エネルギー・環境会議, 2012. 革新的エネルギー・環境戦略, 2012年9月14日.

http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/npu/policy09/pdf/20120914/20120914_1.pdf

国立環境研究所 AIM プロジェクトチーム, 2012. 2013年以降の対策・施策に関する検討小委員会における議論を踏まえたエネルギー消費量・温室効果ガス排出量等の見通し, 中央環境審議会地球環境部会第109回提出資料.

http://www.env.go.jp/earth/report/h24-03/app01_part1.pdf

国立環境研究所 AIM プロジェクトチーム, 2012. 対策導入量等の根拠資料, 2012年6月13日/2012年9月12日(改訂)

[http://www-iam.nies.go.jp/aim/prov/2011_committee/ref2\(2\)rev20120912.pdf](http://www-iam.nies.go.jp/aim/prov/2011_committee/ref2(2)rev20120912.pdf)

以上